



第3回福井都市圏パーソントリップ調査結果の概要

1. 調査の概要

- 福井都市圏（福井県嶺北地方）の約 6.1 万人を対象に調査を依頼し、約 4.4 万人から調査票を回収（回収率 72%）
- 平成 17 年 10 月から 11 月にかけて、調査員の訪問配布・訪問回収により、調査を実施。
- これまでの分析で、総トリップ数が前回（平成元年）から今回（平成 17 年）にかけて 5% 減少したこと、自動車利用が増加しそれ以外の交通手段が減少したこと、移動目的では買い物などの私用目的での移動が増加したことが明らかになっています。

用語説明

- トリップ……人がある目的を持って、ある地点からある地点へ移動する単位をトリップとする。
- 目的……各トリップの移動目的のことであり、通勤・通学・私用・業務・帰宅に分類する。
- 代表交通手段……トリップで利用した主な交通手段。複数の交通手段を利用した場合は、鉄道・バス・自動車・二輪車・徒歩の順に優先する。以下の例の場合には代表交通手段は鉄道となる。



2. 自動車利用は、私用目的や女性・高齢者が増加し、使われ方が変化しています

- 自動車利用トリップは前回調査から今回調査にかけて約 1.2 倍に増加しています。その目的を見ると、買い物や送迎などの私用目的で 1.9 倍と大きく増加していること、女性や高齢者の利用が増加していることが特徴的であり、自動車の使われ方が変化してきていることが伺えます。
- この様な背景には、女性や高齢者の免許保有の増加、自動車の複数保有の進展などがあると考えられます。

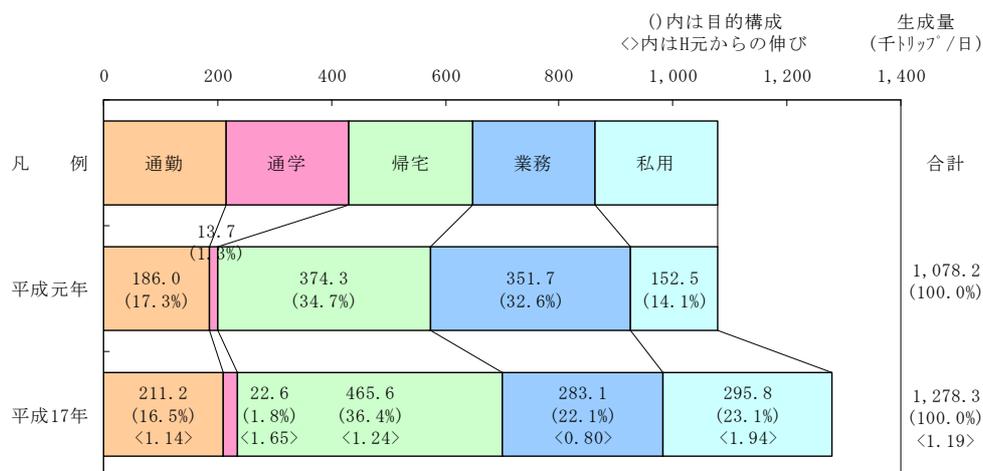


図 自動車の目的別トリップ数の推移

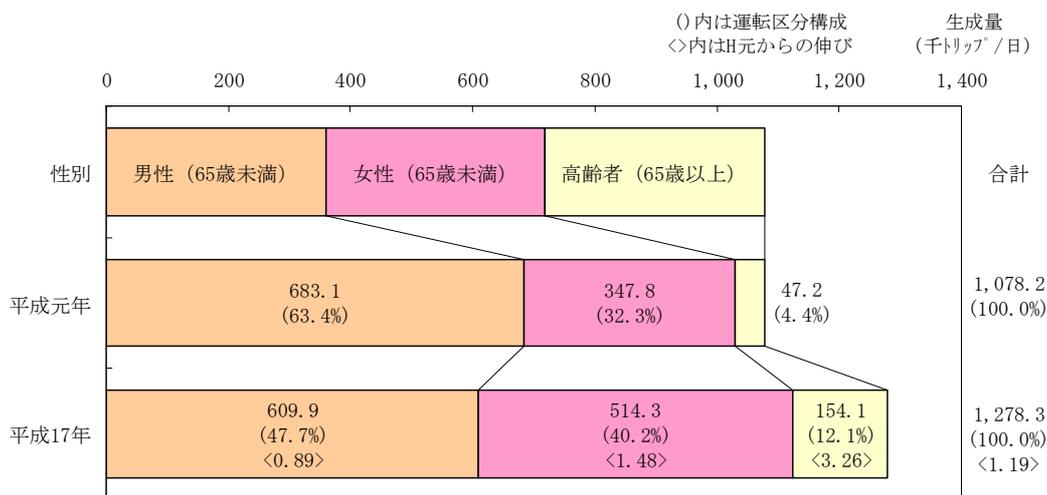


図 性年齢階層別の自動車トリップ数の推移

3. 鉄道やバスを使う人が大きく減少しています。

- P T調査に基づく、鉄道利用者数については、平成元年から平成17年の間に約7割の水準に低下しました。また、路線バス利用者数については、同様に約5割の水準に低下しました。目的別にはいずれも通勤目的での減少が大きくなっています。
- この様な背景には、従来の上述した自動車利用の進展に伴い、鉄道やバスの利用が減少したことが考えられます。

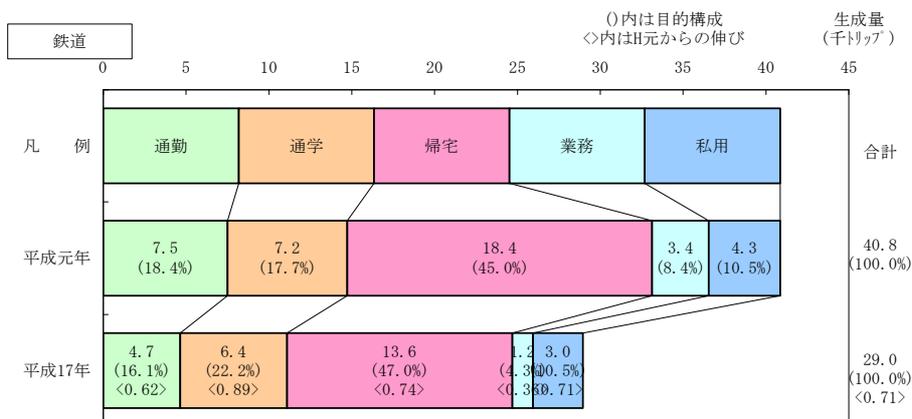


図 目的別の鉄道利用トリップ数の推移

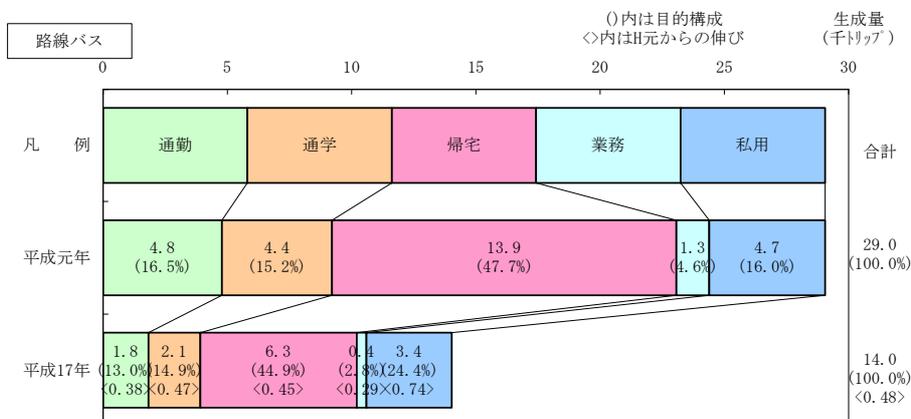


図 目的別の路線バス利用トリップ数の推移



4. 高齢者の移動の増加、特に自動車を利用した移動の増加が顕著です

- 高齢者の人口は、平成元年から平成17年にかけて約1.57倍に増加しています。一方で、高齢者の移動は平成元年から平成17年にかけて1.67倍と人口の伸び以上に増加しています。
- 高齢者の移動時の利用手段を見ると、特に自動車利用が大きく増加しています。このような背景には、高齢者数の増加、免許を保有する高齢者の増加、等が挙げられます。また、この結果、全自動車トリップに占める高齢者の割合は1割を超えています。

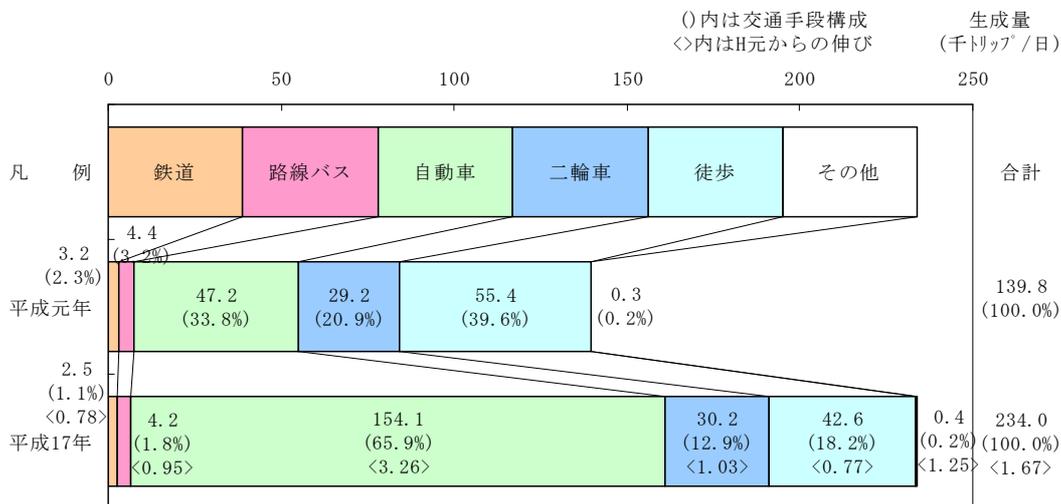


図 高齢者の代表交通手段別生成量の推移